

モジュールを無限大に掛け合わせ、喫緊の課題“人手不足”など根本的な問題解決を

～さらなる情感を追い求め、スタッフに、顧客に寄り添う 最適な環境づくり、光・音・映像・風・香りでデザイン～

1916年、まだ暗かった日本の部屋を明るくする電球の製造事業から始まった㈱モデュレックス。
優れた光の仕事をさらに進化させ総合環境ソリューション事業で新たな時代を刻み始めた。
独立した機能を持つモジュールを無限大に掛け合わせ、
ホスピタリティビジネスの根本的な問題解決を目的としたソリューション群を提供する企業を目指す。
モジュール＋無限の組み合わせを磨き上げ、どのような問題も解決する、
モデュレックスの独創性はホスピタリティビジネスにおいて欠かせない存在となるだろう。



代表取締役 兼
社長執行役員
嘩道 悟朗氏

スタッフが生き生きと 働くための本質を追求

モデュレックスは照明環境事業、環境制御システム、エクスペリエンスデザイン事業、エネルギーソリューション事業、4つのビジネスモジュールを組み合わせ、総合環境ソリューションの最適解を導き出している。

単なる機材や装置ではなく、どのカタチにもなり得る概念、トポロジーを重視し、何のカタチでもないと定義されているものを本来のプロの姿ととらえることで、人手不足を解決するための働きやすい職場環境づくり、ライバル店に勝つための顧客が自然に寄り添う空間、連泊するインバウンド客に向けたトラブル防止など、今、抱えているさまざまな問題解決を導き出している。今、ホテル業界に関わらず喫緊の課題は人手不足だ。新卒者100名採用しても半年後、1年後、3年後にはどれだけの人材が残っているのか、首都圏やリゾートでホテルラッシュがまだ継続している中、人材確保は至難の業でもある。

中には離脱することを想定して大量採用しているホテルも少なくないが、そのパターンを繰り返していて良いのか。給与を上げることももちろん必要不可欠であるが、離脱させることなく働き続けられるスタッフの気持ちに寄り添う職場環境改善に投資する方が、採用投資する以上に今、すべきときである。

ホテルの表舞台は華やか、きらびやかであるが、一歩ドアをくぐりスタッフ用フロアを見ると、心休まらない蛍光灯の灯りが煌々と輝やく。中には省エネと称

して消灯しているホテルもある。従業員食堂も仮眠室も然り。ホテルの稼ぎ頭である現場スタッフを大切にケアしていないところが大半だ。今、必要なのはお客さまとの接客で疲れているスタッフの気持ちに寄り添うこと。それは裏舞台こそがお金を稼ぐための原動力であり、エンジンだからだ。「例えば仮眠室など、ボタン一つで好みの明るさに調整できますので、個々の好みやそのときの感情に寄り添った明るさに調整することで、快適で居心地の良い空間を創り出すことができます。従業員食堂も自然光、映像コンテンツなどが空間全体に広がることでやすらぎや活力を生み出すことができます。そのような取り組みによって、大切にされているということ、言葉に代わるメッセージとして届けることが離職率防止につながるのではないのでしょうか」（平野 幹氏）。

こうありたいという心の本質をどう実現させるか、特に職人技を生命線としているシェフや調理人の創作意欲をわかせるために不可欠なことである。あるミシュラン2つ星の和食店で同社の照明器具を導入したところ、“調理人の目が楽になった”という効果があった。確かに表向きは見えにくいという目の症状を改善させる策ではあったが、本質は料理人が求めている料理人魂、やりたいことをやってみたい、という追求心をたぎらせることができたということになる。創作意欲が高まり、イキイキした空気感は売り上げアップにもつながる。

ホテルの生命線 リピート客を獲得する 五感に訴えるテクノロジー

首都圏とリゾートを中心にホテル計画は目白押し。そんな中、開業したその日から設備やそのとき最先端のデザインは陳腐化が始まる。“うちのホテルは古いので”を理由にライバル店が続出するなかで肩を落として



© Satoshi Asakawa



©Satoshi Asakawa



1. コートヤード・バイ・マリオット札幌
2. グローバル本社エントランス
3. グローバル本社光册房
4. コートヤード・バイ・マリオットホテル札幌客室
5. 「メセナアワード2025」優秀賞受賞



執行役員
コーポレート統括本部
企画本部長
平野 幹氏

いる経営陣も多く、その空気感はスタッフにも伝播する。

一見するとハード産業ではあるものの、それを追っているのはキリがない。いかにリピート率を上げていくことができるかが、息長いホテル経営の生命線でもある。

そのためには前述したスタッフに寄り添う環境改善とともに、光・音・映像・風・香りで人の情感をデザインすることが求められる。あの空間にまた行きたいと情感を刺激させる世界観である。モデュレックスは「さらなる情感」を追い求め、新緑の香りが漂う心地よい風を感じたときのふとした体験や、眩いばかりの陽射しを浴びたときの爽快感など、五感から受け取る感覚に注目。「空間×ひと×コト」＋「時間」で五感に訴えかけるカタチを生み出した。視覚だけではない五感をテクノロジーのアレンジで表現することにより、新規オープンホテルに負けない継続の生命線となるリピート客を創り出していくことができるのだ。

集客アップに向けた SNS 対策や Bar カクテル開発も

集客力アップにおいてはSNS対策が不可欠となっている。横浜西口イルミネーションでの成功事例から、“自分のお店で似たような写真ばかり並ぶのがとてもイヤ”という飲食店オーナーのニーズをとらえ、インスタグラム撮影のアングルまで考慮した空間演出を行なった。また光だけでなく五感全体に訴えるBarのオリジナルカクテル開発サポートを社内のクリエイティブデザイン

チームとアジアナンバーワンのソムリエがいるデザインコミッティ、そしてバーテンダーにて共同開発するなど、さまざまな課題にトコトン取り組んでいる。

インバウンド客増加に伴い、連泊者も増加。課題として連泊者の客室清掃である。部屋に滞在しているときに客室清掃に入ってしまうトラブルも増加している。在室中か否かを判断は監視カメラをつけなくとも客室内の行動を分析して判断することができるという。

このようにモデュレックスは単なる照明メーカーではなく、『組み合わせのプロ』として課題解決とビジネスの進化を支援するパートナーとしてさらなる進化を目指す。「個々人、各組織の能力モジュールと、一つひとつのソリューションモジュールを高め続け、最適のモジュールの組み合わせ、『独創』を生み出します。この、ほかにはない『独創』によって、変わりゆくさまざまな社会課題への解決策を提供し、人々の心と人々を包み込む環境とを、つないでいく。それこそが、私たちの使命だと考えています」（嘩道悟朗社長）。

学術活動や音楽家の社会的地位向上を目的とした芸術活動など社会貢献活動にも取り組むモデュレックス。課題解決に向け真摯に取り組み、1つ1つしていねいにプロの技術、感性を幾重にも足し算、掛け算し続けている。今まさに、直面する問題を解決するとき。そこには人間だからこそ心の中で燃えている情熱や闘志をどうとらえていくのか。今まさにテクノロジーを伴走させ、変化させていくことができる時代。さまざまなテクノロジーを掛け合わせ、日々努力を重ね、探求止まないモデュレックスの真摯な姿に注目したい。

㈱モデュレックス 東京都渋谷区恵比寿南1-20-6
<https://www.modulex.jp>